

最終報告書

1. 事業の概要

事業名	こども・女性活動グループつながりプロジェクト				
開始日	2016年12月1日	終了日	2016年5月31日	日数	182日間
団体名	熊本こども・女性支援ネット		担当者名	園田敬子	

総額（税込）	4,500,000円	スタッフ人数	4名
--------	------------	--------	----

事業目的	熊本地震を経験し、被災を超えて、持続可能な未来につながる熊本地域づくりのためのネットワーク体制の整備と連携強化をはかり、活動を促進する。また、災害時に母子を守るための仕組みづくりとして、「社会的保育士派遣プロジェクト」をモデル的に実施し、意見を取り纏め、提言する。
事業背景	2016年4月14日、16日に熊本・大分地方をおそった二度にわたる最大震度7の地震では、数万戸にも及ぶ家屋や事業所が倒壊し、ライフラインは寸断され、私たち県民の平穏な暮らしが一変しました。私たち熊本こども・女性支援ネットは、地震発生から4日後の2016年4月20日に発足し、こどもや女性のケアが見過ごされることのないよう、その声なき声を聴き、権利を保障し、自らが日常の安心を取り戻すことをサポートしてきました。緊急支援としての活動と共に、こどもや女性のサポート支援活動団体を中心にネットワークを構築し、つながり、共助できる体制を築くことで、この経験を、今後の持続可能な未来につながる熊本地域づくりに活かしていくため、情報収集と課題の共有の場づくりに努めてきました。外部からの支援に支えられながら、自らも被災者でありながら、立ち上がり支援活動を行った地元団体は沢山あり、被災から8ヶ月が経ち、それぞれが新たな支援のフェーズに這いつつあり、現場・支援者の課題も改めて見えてくるものが沢山ありました。その中で、私たちにできる役割は何か、支援者と共に、学び、つながりあい、より良い支援につながるよう、そして必要な方に必要な支援が届くよう、活動を続けていきたいと思っています。
事業内容	1. コンポーネント① 県内こども・女性分野のグループとネットワーク体制整備と連携強化 活動充実に向けた県外とのネットワークや過去の事例から学ぶ視察研修実施

	<p>2. コンポーネント② 社会的保育実践者派遣事業 支援と受援の体制づくりモデル事業 振り返り・成果報告会開催・意見とりまとめ提言</p>

2. 事業の評価（評価者：公益財団法人佐賀未来創造基金・山田健一郎）

最終評価実施日：平成28年12月13日

(a) 妥当性：事業開始当時の状況やニーズに合致していたか、事業実施のタイミングは

よかったか

【コンポーネント①】

- 震災から4日後というスピードで第1期目が立ち上がり、その流れを汲んで第2期目を実施されたことはタイミングや事業の継続的な流れとして非常に良かったと考えられる。
- その裏には、必要性に駆られて、違う団体でも共に被災したらからこそ同じ目線で活動できる女性の各リーダーがいたことが大きかったように思える。ただ、かなり無理をしながらのタイミングと活動だったことも活動状況や現状からも感じているので、今後はこれまでの活動をしっかりと振り返り、組織基盤強化や人材育成などの次への展開の準備をしながらリスタートをしていくことが求められる。
- また、東北の現状への視察も、今のタイミングだからこそ東北の現状を感じて学ぶことで、熊本の復興に活かせる良い機会であったと思うので今後の復興にしっかりと活かせることを期待したい。

【コンポーネント②】

- 第1期でのネットワーク調査を踏まえての支援と受援の体制づくりモデル事業だったので、調査に基づき、地域ニーズを捉えて、地域資源や他分野との団体のつながりを形成しただけでなく、つながることの大切さを啓発してネットワークの必要性を感じる事業を行った後に本プロジェクトを実施したことは、ニーズを適格に捉え、タイミング的にも調査した流れが活きる発展性のある良いタイミングだったと言える。

(b) 有効性

: 目的の達成率

【コンポーネント①】

- ネットワーク形成という観点から、会合の開催回数や直接会う頻度を高くしたことで、ある程度関係性構築はできていたのではないかと考えられる。
- また、内輪のメンバーだけでなく、県外を含めた外部の方々との連携により、一つ一つの会合を丁寧に行っていたことが体制整備と連携強化に繋がっているのではないかと考える。
- 他のイベントなどと日時調整がうまくいかず、参加人数が少ないこともあったが、少人数でお互いの考え方や想いをより深めるには結果的には良い機会になったようだった。
- 今後の効果的なネットワークになるためには基盤強化や人材育成などの期待や課題は残るものの、今回の取り組みは、こども、女性だけではなく、広く分野横断的なネットワークの中核的な存在にもなっており、復興において、くまもと未来ネットのような分野横断型の中間支援的なネットワークが創れたことなどの副次的効果を含めて非常に有効な機会になったのではないかと考えられる。

【コンポーネント②】

- 災害時にはなかなか手が届きにくい緊急的に支援が必要な保育現場を、共通のビジョンを持って支援・受援の体制づくりが実証できたことは現場保育者の声からもチャレンジングかつ先駆的で有効な手段だったと考えられる。
- こどもと女性を軸にしたネットワークづくりと社会的保育実践者派遣事業というモデル的なチャレンジをいち早くニーズをつかみ、仮説を立てて、必要性を被災した女性自身が声をあげて訴えながら取り組んだことにも大きな意義があったと考えられる。
- モデル事業として考えると、現場との相互理解やマッチング、そして人材育成や平時からの機会の創出とプログラム開発、地域との連携など、今後の課題認識や検証が必要になると考えられる。改善点の発見を含めて今後更に発展していく有効な事業として広がり期待したい。
- 振り返りや成果報告会、そして意見の取りまとめと提言などをしっかりと実施できたことの一連のプロセスがモデル的であり、地域の財産になったのではないかと考える。
- 国のモデル事業としても取り上げられ、全国的にも先駆的な事例として認識されることで、地域での課題解決策の一つとしての可能性を広げられたことにも意義があったと考えられる。今後の他地域での二次的な広がりや事業の発展可能性にも期待したい。

(c) 効率性：インプットに対してアウトプットがどれくらいあったか、手法は正しかったか

【コンポーネント①】

- ネットワーク体制整備と連携強化ということを主眼に置くと丁寧な関係性の構築が肝になると考えられるので効率性は決して高くないように思われがちだが、毎回工夫をしながらしっかり

と回数を積み重ねていくという手法はネットワーク構築や連携強化を考えると効率的で効果的な手法のひとつだと考えられる。

- 過去の事例から学ぶ視察研修においての東北の視察はスケジュールや視察先などの設定に関しては反省点もあるということでしたので、熊本の復興をはじめ、こども・女性分野のグループとネットワークのためという目的に立ち返り、未来予測という観点と情緒的な共感の部分と今後のモチベーションという視点でも視察研修を熊本で活かすための今後の取り組みを期待します。

【コンポーネント②】

- ニーズ調査から実証実験でのモデル事業を当初から想定して実施しており、成果をまとめて提言している点からも狙いがはっきりしていてモデルとして広げることを最初から意識して事業設計をしている点からも本事業のアプローチは高く評価できる。今後の波及効果を考えてもアウトプットとしては役に立つ部分が多いのではないかとと思われる。
- 多くの派遣事業のコーディネートのみならず、振り返り、シンポジウムも丁寧に実施できている。また、意見交換できる「場」づくりや視察、提言書の作成、提出など事業を実施するうえで多様な主体を巻き込み、連携していく兆しができていることがアウトプットのみならず、今後の他分野や保育士だけではない、子ども、家族、地域への受益対象者の広がりが期待できる。
- 細かい反省点をあげれば、保育士マッチングの際の導入部分の相互理解をオリエンテーションなどでしっかりとフォローできれば、モデル事業の質があがり、平時での準備や今後の人材育成や離職軽減などまでの更なる波及効果も期待できるのではないかと考えられる。

(d) 調整の度合：いかに被災地コミュニティと連携できていたか、終了時のタイミングや方法はどうだったか

【コンポーネント①】

- 被災地における関係団体との連携をこども・女性分野のグループを軸に小さいながらもしっかりと組み立てているので、本事業がこのタイミングで終了しても、今回構築したネットワークやコミュニティは残り財産になっていくという考えのもとで、今後の継続的でゆるやかなネットワークや部分的な組織化などのビジョンやプログラム開発や事業化などについてしっかりと話し合い、振り返りながら次の展開に発展していくことを期待します。
- 総額200万円を超える寄付があったことも被災地コミュニティや外部支援者からの復興への大きな期待を感じることができ、本事業が終了しても事業そのものの継続と発展の必要性を強く感じる。

【コンポーネント②】

- 被災地での事業実施は県内でのエリアバランスもよく、保育園とのネットワークを塩崎先生の保育関係者コミュニティと連携することで、被災が深刻だった場所を中心に支援できたことはよかった。
- 終了のタイミングは、予定通りの期間で完結できたものの、今後のニーズを考えると、今後の継続的な係わりをいかに構築していくかが大切だと思われる。

(e) 波及効果・インパクト：当初の目的以外に得られた効果、課題

【コンポーネント①】

- 女性や子ども支援のコミュニティを核として、多くの分野の方々が月を追うごとに集まり他分野横断型の中間支援組織として、くまもと未来ネットが発展的に誕生してきた点でも当初の目的外に得られた効果ではないかと考える。
- 復興に向けて今後の地域コミュニティ活動においての資金需要にも応える形で市民コミュニティ財団設立の動きも同時に出てきている。設立にあたっての課題も多いが、200万円を超える寄付を現在までに集めていることや人材育成や地域課題の解決に取り組んでいくという観点からも波及効果は大きいと考えられる。

【コンポーネント②】

- 内閣府からも取り上げられて、熊本県へは提言書として報告していることから、今後の熊本県をはじめとした全国への広がりや制度化が期待される。また、他県のモデルとなりえる事業として想定以上の広がりを見せている。
- 今までの熊本をはじめ、全国にもない新たな価値がモデル事業として創られたことと、事業を通じて課題が捉えられたことは今後の展開としては大きな効果である。
- モデル事業を実施したことで、各保育園内スタッフや地域の男性陣の意識が変わり、人材育成の視点でも大変意義深かった。

(f) 新規性・独自性：新しいアイデアや工夫が取り入れられているか、他被災地のモデルとなり得る事業か

【コンポーネント①】

- ネットワークづくりは特別に新しいという手法ではないが、関係性構築という非常に大切に根幹を担う部分であるからこそ、しっかりと取り組むとなると難しい。今回の取り組みはなかなか手が届かない女性や子どもにターゲットを絞ったところが、結果として他分野横断の全体的な広がりを見せている点で他被災地の参考になると考えられる。
- ネットワークの意義を理解して、敢えて緩やかに形成しているところがポイントである。

- 継続していくネットワークは取り組み方も難しい。今後の部会への発展や位置づけ、次の段階としての組織作りなどが課題として出てくることが予想される。ただ、現状としては寄付依頼も多少あり、支援者や協力団体が広がっている現状からも、緩やかな中でのポイントを抑えた運営など、継続することは大変さを抱えながらもしっかりと覚悟を持って運営することで他被災地のモデルとなることを期待します。

【コンポーネント②】

- 今までにない取り組みであり、子どもや女性の視点で着眼された独自性の高い事業である。
- 全国的なモデル事例として取り上げられていることから、社会的保育実践者を派遣することで派遣者と受援者の力をつける本事業は他被災地のモデルとなりえる事業であり、今後の発展や広がりが期待できる事業であると考えます。
- 振り返りや成果報告会、そして提言書などの事業や課題等の整理がしっかりできていることから汎用性の高い広がりが期待できる事業である。

3. 評価者の所感

子どもや女性支援という新規性と独自性の高い難しい取り組みをニーズ調査からはじめ、保育現場の観点で保育園自体を巻き込み実証実験的に実施して政策提言まで行ったことは非常に意義があり、今後の広がりや発展可能性の高い社会的インパクトの期待ができる保育実践者派遣事業だったと言える。

そのベースにあるのが子どもや女性分野のネットワークを地道につくっていくことで、人的な資源を紡ぎ広げ、事業実施の土壌をつくっていったことがポイントではないかと考える。

今回構築してきたネットワークや連携が災害時の支援のみにとどまらず、復興や地域づくりそのものに対応していく中間支援的機能やコミュニティ財团的な機能に発展していこうとしている可能性を持っていることに高い期待を寄せており、熊本における、環境・子ども・女性を中心とした他分野のニーズを調査などで把握して解決していくネットワークになること、そして、最終的には、平時の人材育成やネットワーク、学びの場づくりをはじめ、男性支援の観点、創業支援などを含めた、女性の自立や地域経済の発展などの視点を持って事業及び団体運営していくことを期待します。

今回の事業を通じて、事業そのものが実行されただけではなく、今後の熊本における課題のひとつである中間支援的機能などを持つ団体の基盤をつくり、今後継続的に発展していく契機になったことが、本事業の副次的で大きな価値のひとつだったのではないかと考える。

本事業が熊本から発信する新たな価値創造と共に、持続可能な地域づくりのリソースとなり発展していくことを期待します。